

仙人通信 128 矢倉岳 (870 m)

矢倉岳は金時山・足柄峠から連なり、北側に東名高速・246号を南に県道78号(足柄古道)に挟まれた釣鐘状に尖った山で、ほぼ360°の展望が得られる山である。

足柄峠にある万葉公園の駐車場から矢倉岳のピストンである。

足柄峠は、奈良時代に碓氷峠と並んで都から、武蔵や陸奥の国府に向けての主要道であり、逆に九州への防人達の交通の要でもあった。今でも石畳の古道があることで、訪れる人が多い。駐車場から万葉公園内を散策して、ハイキングコースへと入る。

万葉公園には、多くの木々の名前に因んだ万葉集の詩のプラカードが付けられている。

ハイキングコースは、公園の山頂から10m程下がった所にある直径30cm前後の植林された檜林の中を進む。昨夜の雨で下木の葉が木漏れ日に光る。そんな中に赤い5mm程の実を付けたカラタチバナ『唐橘』だ。伊豆の万次郎に登った時に初めて見つけた事を思い出す。

眺望の無い登山道は、緩いアップダウンで、富士山の噴火による玄武岩の砂で歩き易い。

20分程歩くと沢沿いの落葉樹となり、目の前に萱やウツギの矢倉岳が望める。沢を過ぎると再び檜林の中である。

25分程進むと矢倉岳が望めるポイントであるが、高压線が斜めに横切り絵にならない。沢筋では拳大の玄武岩やシソ岩石だ。この地は酒匂川の先まで足柄層群であり、丹沢山塊との間に神縄断層を構成している。コースはほぼ尾根となり、時折牧場で有名な大野山も望める。15分程登ると、洒水の滝との分岐点の山伏平である。山頂に向い丸太の杭で階段を整備したのだろうが、火山灰の為にほとんどが抜けてしまい、雨で濡れグチャグチャに捏ねられた登山道となる。山の北側は相変わらず檜林であるが、南側は落葉樹(ウツギ等)となり、箱根の明神岳や金時山が望める。25分程でカヤの山頂に着く。

東側から酒匂川の先に大井松田IC近くの橋が、曾我丘陵・相模湾・箱根・愛鷹・富士山・三国山・御正体山までが一望できる。源平時代の相模の国の武士団である三浦・大庭・岡崎・土屋・中村・曾我等の拠点を山並みに併せて、眺めるのもいいものだ。

青空に真白い富士山、宝永火口近くで出来た雲が山頂に向かい上昇し、愛鷹山塊の越前岳に向い、この地で再度上昇気流となり消えて行く。箱根大涌谷の噴煙も山頂に向かい和香だ。

ノンビリと30分程の休憩後、駐車場に戻り、足柄峠の西側にある北条氏の城であった足柄城跡・森羅三郎の笛吹塚・六地藏を見た後、鎌倉時代の地藏が祀られる地藏堂や金太郎の産湯と言う夕日の滝等の足柄古道を散策し、帰路につきました。(H 27. 2. 27)

山頂



山頂からの富士



夕日の滝

